経済学部卒業の石黒でなく、ヨット部卒業の石黒です（笑）

◎経済学部5期生／大倉工業株式会社 代表取締役会長　石黒治也

香川大学に在学中は、勉強よりヨット部にのめりこんでました（笑）。昭和28年の四国国体で、ヨットの会場が高松になったのをきっかけに、香川県にもヨット連盟ができました。当時は松山商科大学が強く、私たちのほうは、できたばっかりの部を何とか強くしようとのめり込みましたね。その成果があって、3回生、4回生の時には全国大会にも出場しました。昨年の9月には創部50周年記念をしましたし、今もOB会で活動しています。

香川大学卒業後、大倉工業に入社したわけですが、神武景気が終わった後の不況の中です。就職活動は非常に難しかった。大倉工業は、もともと倉敷紡績の高松製作所が出発地点で、昭和31年からポリエチレンの製造を始めていました。たまたまゼミの先輩が入社していたので工場見学に行ったら、そのポリエチレンの製造をしていた。石油化学という言葉もないような時代ですから、非常に珍しいわけです。今後伸びるぞという話を聞いて、会社訪問しました。すると小さな会社ですが、従業員がみんな若くて活気があるんです。期待して入社しました。

入って2年目、東京に工場と営業所が設けられ、転勤になりました。先輩と2人だけで行きましてね、工場の建設から営業所の設立など、ほとんど何にもないところからから出発したんです。1カ月の間に家に帰るのはトータル1週間くらいで、取引先の新規開拓にかけずり回りました。そこが私の原点みたいなもんです。学生時代はヨット部に燃えたわけですが、大倉工業でポリエチレンをやることになった時、これはもう業績を伸ばさないと、大学出て中小企業に入ってそれだけじゃイカンと思いました。みんなに認めてもらうには、何とか東京支店を大きくしようと。それは学生時代にヨット部を強くしようとしたことに通じると思います。東京で20年くらいもまれたわけですが、それがなければ今の自分はなかったかもしれないですね。そういう点では現在の学生は、真面目だけどおとなしすぎる気がします。今は経済的に難しい時期だし、大手の企業はどんどん分社化しています。そこへ若い人が責任者で行っている。そういうところでは、チャレンジ精神のある人でないとやっていけません。香川大学ではそういう人材が育ってほしいですね。（談）

直筆の「弧掌豈能鳴」。一つの手では音は鳴らない、何事も一人ではできない。

CORPORATE PROFILE

社　名：大倉工業株式会社
本　社：〒763-8508 香川県丸亀市中津町1515
☎0877-56-1111（代表）
資本金：86億円（平成16年12月31日現在）
社員数：1435名（平成16年12月31日現在）
主な製品として、カップ麺の外装に使われるシュリンクフィルムなどの合成樹脂フィルム、家具用の加工合板やパーティクルボード、携帯電話などの液晶画面に用いる光学機能性フィルム、乗用車のヘッドレストなどのウレタンフィルムなどがある。大倉工業の製品とは表示していなくても、「包み、守り、進化させる」という大切な役割を果たしている。